

雨山峠－玄倉山行報告（平成 28 年 12 月 24 日（土））

今回は群馬県の「戸神山」に登る予定であったが、群馬北部は天気予報が雪となったので、急きょ南関東に目標を変更した。寄－雨山峠－玄倉というルートは、丹沢ではかなり行きにくいルートの一つである。特に雨山峠までのコースは、他の会が再三道を間違えたという屈指の難ルートでもある。この難しいルートだが、小澤さんが連れて行ってくれるというので安心して行くことができる。こんな年末に誰が行くのかね、という青柳さんの疑問をよそに、伊藤・小澤・後藤の 3 名が参加することになった。なお、ガラス拭きや庭木の剪定など、大掃除の任務は前日も含めて適宜行っていたのでご安心いただきたい。

さて、当日は 7 時 40 分に新松田駅集合であるが私は数分遅れてしまった。駅前には小澤・後藤両名の姿がすでにあり、最初に来ていた後藤さんに叱られてしまった。55 分発のバスに乗り 8 時 20 分に終点の「寄」に着いた。このバス停は昔シダゴ山に行ったときに利用したことがある。近くのグラウンドにあるトイレを借りて、8 時 30 分に出発する。

気持ち悪いほど暖かかった昨日から一転してかなり気温は低くなったが、この時期にしてはまだそれほど寒くない。真っ青な空の下、最初は舗装道路を北に向かうが、本日は「超」の付く快晴である。風もほとんどなく、歩いていると汗ばんでくる。後藤さんの上高地コンシェルジュ報告を聞きながら歩くと、長い車道歩きも苦にならない。9 時 10 分に赤い寄大橋との分岐にあるゲートを通過し、9 時 30 分恵水の森登山口に着いた。ここから登山道が始まるのだが、ハンターがライフルを構えて猟犬が吠えているのは気味が悪い。

まずは一旦植林帯の中を登るが、間もなく河原に降り立ち沢沿いの道に行く。広い河原の道は何回も対岸に渡渉するのだが、橋は無く飛び石伝いに反対側に渡る。ほとんどの場所に新しい標識があるので渡渉点を探す苦労は無い。SMAP の話などをしながら堰堤が連続して現れる河原の道を歩いて行き、5 回目くらいの渡渉のときに先頭の小澤さんがスリップして転んでしまった。小澤さんは衣服が一部濡れてメガネをなくしてしまったが、「化繊の衣類を着用しているのでそのうち乾きますよ」と少しも騒がず、予備のメガネを取り出すという余裕を見せるのであった。幸い打撲もなさそうだし、衣類やメガネも問題ないとのことなので先に進むことにする。このあたり、今回は水量が少なかったのも良かったが、雨の後など水量の多いときには渡渉も苦労しそうである。

だいぶ上流に来たなと思える 10 時 45 分に木製の長い梯子が現れた。ザレた斜面を左側に進むと、古い栈道が落ちている。モロイ地質のこのあたりは雨で登山道が崩れてしまい、道を架け替えているのだろう。だいぶ頭上が明るくなってきたので峠は近いと思わせるが、ゴールはまだ遠い。後藤さんの留学や英語の話など、高尚な（？）話をしながら植林帯を過ぎ、11 時 00 分に鍋割分岐を過ぎるとまたも沢沿いの道になる。すでにかなり上流で水量はほとんどないが、桶状にえぐれた沢底を歩く道になる。途中の日当たりのよい場所で休憩すると、ポカポカ陽だまりハイキングのような気分になってくる。沢をさらに詰めると梯子が何か所かあらわれ、これを登ると 11 時 55 分に雨山峠に到着した。

峠には木製のテーブルがあり 2 人組が休憩していたが、我々と入れ違いに寄方面に下って行った。峠からは樹に邪魔されながらも富士山が見えるが、展望はあまりない。日陰で風も通るため寒いので、記念写真だけ撮って 12 時ちょうどに反対側に下山した。

下りも最初は沢沿いの道となる。上流は歩きやすい道であったが、徐々に深い谷沿いの道となり、梯子や栈道が続く。荒れた沢の道を誰が補修してくれているのか不明であるが、大変であろう作業に感謝しながら降りて行った。上りに比べるとこちら側は比較的短く、12 時 40 分に雨山橋に到着、あとはユーシン溪谷沿いの林道歩きとなった。

今まではほとんど人に会わない静かな山行であったが、林道に降り立つと行き交う人が多くなった。ほとんどの人がスニーカー程度の軽装で、荷物も持っていない。実はこの溪谷こそ、「ユーシンプルー」と呼ばれる美しい青い水が見られることで最近有名になり、多くの人が訪れるようになった場所なのである。かく言う我々もその仲間、後藤さんはこのために担いできた重い一眼レフを取り出した。

最初のうちは河原が広く川も浅く流れており、一見上高地のようでもある。と思ってみると、木が多いもの穂高のような形の山もあるような気がする。下るにつれて水量が増え、特にダムの手前では深く溜まった水は青みを増してくる。残念ながらややグリーンに近い色となっているのは、すでに午後になると太陽が低くなり谷間にはあまり陽が射さないからのようだ。ユーシンプルーを見るなら午前中の方が良さそうである。ただし、こちら側から雨山峠に登り、寄に降りるのは道がより厳しいと思われる。

林道に降りた直後は次のバスに間に合うように早めに歩いたが、間に合いそうもないので溪谷美を楽しみながらゆっくり歩いた。この時間になっても軽装の男女がやって来ると他人事ながら帰りが心配になる。途中幾つものトンネルを抜けるが、1 か所はライトが無いと通過が難しい。その後もゆっくり歩いたつもりだが、前方に玄倉大橋が見えてきて、15 時には玄倉バス停に着いてしまった。うまい具合に今度のバスは 15 時 06 分発であり、この次のバスは 1 時間待たなければならないので、実に良いタイミングであった。バスを待つ列に並んでいると、丹沢湖のはるか向こうに富士山の頭が大きく見えていた。

バス停には 10 人以上の人が待っており、西丹沢から来たバスには既にかかりの人が乗っている。私と後藤さんは何とか座れたが、小澤さんは立って帰るといふ新人シゴキに耐えなければならなかった。温泉とビールどちらがいいですか？との問いに、後藤さんは間髪を入れず「ビール」と答えたので、15 時 49 分に新松田に着き、バス停前（というか駅前）にある「はなの舞」に入った。昔は駅前にもソバ屋くらいしかなかったような気がしたが、最近できたようだ。おまけにこの時間から営業しているのは、登山客を意識しているのだろうか。前回すでに 1 年分反省したはずだが、まだまだ反省の種はある。今年 1 年の山の話や来年の計画などしっかり反省し、17 時 32 分新松田発の電車で帰った。

今回は小澤さんのおかげで、一人では行きにくい雨山峠とユーシンをつなぐルートに行くことができた。後藤さんも本年最後までお付き合いいただきありがとうございました。

(伊藤)